



2026年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月20日

上場会社名 株式会社 ユビキタスAI 上場取引所 東
 コード番号 3858 URL <https://www.ubiquitous-ai.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 大吉 裕太
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部 部長 (氏名) 舟橋 恵 TEL 03-5908-3451
 定時株主総会開催予定日 2026年6月29日 配当支払開始予定日 ー
 有価証券報告書提出予定日 2026年6月29日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期の連結業績（2025年4月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	3,924	△5.2	△201	ー	△213	ー	△518	ー
2025年3月期	4,138	19.0	96	34.8	92	6.0	91	176.8

(注) 包括利益 2026年3月期 △485百万円 (ー%) 2025年3月期 62百万円 (166.4%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	△49.59	ー	△24.1	△6.0	△5.1
2025年3月期	8.71	ー	3.9	2.6	2.3

(参考) 持分法投資損益 2026年3月期 ー百万円 2025年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	3,698	1,910	51.7	182.69
2025年3月期	3,450	2,396	69.4	229.09

(参考) 自己資本 2026年3月期 1,910百万円 2025年3月期 2,396百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	△137	△62	851	1,995
2025年3月期	137	23	△220	1,341

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2025年3月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00	ー	ー	ー
2026年3月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00	ー	ー	ー
2027年3月期(予想)	ー	0.00	ー	0.00	0.00	ー	ー	ー

(注) 当社は、さらなる収益基盤の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実を図っていく必要があることから、誠に遺憾ながら、無配を継続させていただきます。

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,950	0.7	△200	ー	△250	ー	△400	ー	△38.25

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2026年3月期	10,459,000株	2025年3月期	10,459,000株
2026年3月期	117株	2025年3月期	117株
2026年3月期	10,458,883株	2025年3月期	10,458,883株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見直し等将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料「1. 経営成績等の概況 (2) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績・財政状態の概況	2
(2) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(連結損益計算書関係)	14
(セグメント情報等の注記)	15
(1株当たり情報の注記)	17
(重要な後発事象の注記)	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績・財政状態の概況

① 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における売上高は、3,924,475千円となりました。

当社グループの報告セグメントは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」、「ソフトウェアサービス事業」及び「データアナリティクス事業」の4つを報告セグメントとしておりましたが、当連結会計年度より、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」及び「ソフトウェアサービス事業」を「ソフトウェア事業」として統合し、「データアナリティクス事業」を「アナリシスソフトウェア事業」に名称を変更したうえで、2つのセグメントに変更しております。

これは、2025年6月に公表した「中期経営計画」(2026年-2028年)を踏まえて、事業セグメントについて改めて検討した結果、当社グループの事業戦略は、顧客のソフトウェアニーズに対して全方位的な支援を行うビジネスモデルに変革しており、当該事業戦略の実行のための組織体制の統合及び経営管理体制の見直しの実態を踏まえ、「ソフトウェア事業」及び「アナリシスソフトウェア事業」の2つの報告セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

なお、各事業における収益の分解については、企業の実態に即し、財務諸表の利用者にとって有用な情報を提供することを目的として、財又はサービスの種類に基づき、従来どおりの区分に従って、「ソフトウェア事業」における製品・サービスとして、「ソフトウェアプロダクト領域」、「ソフトウェアディストリビューション領域」、「ソフトウェアサービス領域」とし、「アナリシスソフトウェア事業」における製品・サービスとして、「データアナリティクス領域」の4区分に分類しております。

「ソフトウェアプロダクト領域」は、組込みネットワーク、セキュリティ&リアルタイムOS関連製品、高速起動製品、データベース製品等の主に自社開発によるデバイス組込み用ソフトウェア等に関する製品・サービス領域であります。

「ソフトウェアディストリビューション領域」は、海外ソフトウェアの輸入販売及びテクニカルサポート等に関する製品・サービス領域であります。

「ソフトウェアサービス領域」は、組込みソフトウェア等の受託を中心とした各種ソフトウェアの設計、開発及びデータコンテンツのライセンス等に関する製品・サービス領域であります。

「データアナリティクス領域」は、統計・数値データ解析ソフトウェア等における海外ソフトウェアの輸入販売及びテクニカルサポート等に関する製品・サービス領域であります。

製品・サービス別の売上高は、以下のとおりであります。

製品・サービス別	当連結会計年度		前連結会計年度		増減率 (%)
	売上高 (千円)	売上割合 (%)	売上高 (千円)	売上割合 (%)	
ソフトウェアプロダクト領域	772,572	19.7	899,457	21.7	△14.1
ソフトウェアディストリビューション領域	1,275,902	32.5	1,318,589	31.9	△3.2
ソフトウェアサービス領域	944,330	24.1	1,005,769	24.3	△6.1
データアナリティクス領域	931,671	23.7	914,973	22.1	1.8
合計	3,924,475	100.0	4,138,789	100.0	△5.2

・ソフトウェアプロダクト領域

当領域は、高速起動製品における国内外の車載機器関連及び海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティ売上、セキュリティ製品及びデータベース製品における産業機器の既存顧客からのロイヤルティ売上、並びに音声コードUni-Voice (ユニボイス) 製品における印刷関連の既存顧客から行政関連に伴うロイヤルティ売上を中心に、売上高772,572千円(前期比14.1%減)となりました。この減少要因は、前期に比べてUni-Voice (ユニボイス) 製品の売上が増加したものの、当期におけるセキュリティ&OS関連製品のロイヤルティ売上が大幅に減少したことにより、当領域全体としての売上が減少したことによるものです。

・ソフトウェアディストリビューション領域

当領域は、BIOS、Bluetooth、ソフトウェア解析・開発効率化ツール及びネットワークマネジメント等の海外製品における既存顧客からのロイヤルティ及び受託開発売上、セキュリティ検証ツール・サービスの既存及び新規顧客へのライセンス販売並びに受託開発売上を中心に、売上高1,275,902千円（前期比3.2%減）となりました。この減少要因は、ネットワークマネジメント製品における既存顧客向けライセンス売上が前期に前倒して計上されたこと、前期に発生したミドルウェア製品の売上が当期に発生しなかったことに加え、OSS検査ツールの代理店契約終了により売上が減少したことによるものです。

・ソフトウェアサービス領域

当領域は、既存顧客からの各種受託開発売上、データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス売上により、売上高944,330千円（前期比6.1%減）となりました。この減少要因は、前期と比べて、既存顧客における開発計画の変更等の影響により受託開発が減少したこと、並びに車載機器向け「YOMI」ライセンス売上が減少したことによるものです。

・データアナリティクス領域

当領域は、一般企業への化学系データベース及び画像解析ソフトの販売が増加したことにより、売上高931,671千円（前期比1.8%増）となりました。

これらの結果、ソフトウェア事業は、売上高2,992,804千円（前期比7.2%減）、販売用ソフトウェアに係る減価償却費62,064千円を計上したことなどにより、セグメント損失244,619千円（前期は44,755千円の利益）、アナリティクスソフトウェア事業は、売上高931,671千円（前期比1.8%増）、セグメント利益43,502千円（前期比15.9%減）となりました。

営業外損益については、営業外費用として支払手数料24,046千円（社内調査委員会による外部法律事務所等への調査関連費用）を計上した一方で、当該費用に係るD&O保険（役員等賠償責任保険契約）による保険金の支払いを受けたことから、受取保険金10,000千円を営業外収益として計上しております。

特別損失として、当社グループの連結子会社である株式会社グレースシステムの買収時に超過収益力を前提として計上したのれんについて、昨今の外部環境の変化により、来期以降の収益性が低迷する見通しとなったことから、のれんに係る減損損失137,875千円を計上しております。加えて、当社及び株式会社グレースシステムの固定資産についても、減損の兆候が認められたため、固定資産に係る減損損失81,753千円を計上しております。

法人税等合計については、将来の課税所得の見積り及び繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額（損）64,234千円を計上しております。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高3,924,475千円（前期比5.2%減）、営業損失201,117千円（前期は96,498千円の利益）、経常損失213,688千円（前期は92,889千円の利益）、親会社株主に帰属する当期純損失518,702千円（前期は91,084千円の利益）となりました。

② 当期の財政状態の概況

（資産）

当連結会計年度末における資産は、3,698,939千円（前期比248,462千円増）となりました。これは主に、のれんが231,886千円、受取手形及び売掛金が83,981千円減少した一方で、現金及び預金が649,242千円増加したことによるものであります。

（負債）

当連結会計年度末における負債は、1,788,230千円（前期比733,802千円増）となりました。これは主に、長期借入金679,905千円、1年内返済予定の長期借入金171,366千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当連結会計年度末における純資産は、1,910,709千円（前期比485,339千円減）となりました。これは主に、利益剰余金が518,702千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は51.7%となりました。

③ 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、1,995,296千円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、減少した資金は、137,845千円（前期は137,876千円の増加）となりました。これは主に、減損損失219,628千円、のれん償却額94,011千円により資金が増加した一方で、税金等調整前当期純損失433,316千円により資金が減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、減少した資金は、62,570千円（前期は23,157千円の増加）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出44,701千円、投資有価証券の取得による支出15,000千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、増加した資金は、851,271千円（前期は220,915千円の減少）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出148,729千円により資金が減少した一方で、長期借入れによる収入1,000,000千円により資金が増加したことによるものであります。

(2) 今後の見通し

米国の関税措置の動向やイラン情勢に代表される地政学リスクの高まりにより、景気の先行きに不透明感が増しております。国内では物価高を背景に、エネルギーや調達をはじめとした各種コストの上昇圧力が強まっております。

社会全体で賃金及び各種コストが上昇しつつあり、受託開発等の受注における単価や価格改定について協議を進めているものの、収益性の改善に時間を要する状況であります。

係る状況の下、中長期での収益性改善も見据え、2027年3月期において、先行投資を継続する前提で連結業績予想を策定しております。

2027年3月期における各領域の売上高の見通しは、以下のとおりであります。

・ソフトウェアプロダクト領域

高速起動製品は、既存顧客からの売上加え、他製品への横展開の進展に伴うロイヤルティ収入の伸長により、売上の増加を見込んでおります。

コネクティビティ、セキュリティ&OS関連製品は、自動車及びIoT機器向けを中心としたセキュリティ関連分野への拡販が進む見通しであります。

データベース関連製品は、引き続き産業機器等の既存顧客案件を中心に一定の需要の獲得を想定しております。これらにより、前期に比べて売上高の増加を見込んでおります。

・ソフトウェアディストリビューション領域

BIOS製品の需要は、前期比で増加する見通しです。

一方で、ソフトウェア解析・開発効率化ツール製品及びセキュリティ検証ツール・サービスは、既存顧客案件の継続が堅調であるものの、競合他社の参入による価格競争などもあり、前期に比べて売上高の減少を見込んでおります。

Bluetooth等の組込みミドルウェア製品の需要は、前期並みで推移することを想定しております。これらにより、当領域全体としての売上高は、前期と比べて減少することを見込んでおります。

・ソフトウェアサービス領域

受託開発による売上は前期並みで推移すると想定しており、売上高は微増を見込んでおります。

・データアナリティクス領域

当期も引き続きパッケージソフトの売上が堅調に推移することから、前期に比べて売上高の増加を見込んでおります。

引き続き、製品ポートフォリオの見直し、技術開発・営業力の強化、人材ポートフォリオの最適化といった構造改革を推進してまいります。

以上を踏まえ、2027年3月期の連結業績予想につきましては、売上高3,950,000千円（前期比0.7%増）、営業損失200,000千円（前期は201,117千円の損失）、経常損失250,000千円（前期は213,688千円の損失）、親会社株主に帰属する当期純損失400,000千円（前期は518,702千円の損失）としております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、日本基準で連結財務諸表を作成しております。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,346,054	1,995,296
受取手形及び売掛金	1,035,037	951,056
商品及び製品	10,172	5,299
仕掛品	8,225	17,657
前払費用	83,427	100,416
未収還付法人税等	—	10,582
その他	30,439	6,589
流動資産合計	2,513,353	3,086,895
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備 (純額)	62,888	7,033
工具、器具及び備品 (純額)	29,562	1,618
有形固定資産合計	92,450	8,651
無形固定資産		
ソフトウェア	52,142	33,766
のれん	348,407	116,522
その他	293	—
無形固定資産合計	400,841	150,288
投資その他の資産		
投資有価証券	265,341	312,468
差入保証金	135,306	134,639
繰延税金資産	40,357	3,618
その他	2,828	2,380
投資その他の資産合計	443,832	453,105
固定資産合計	937,123	612,044
資産合計	3,450,476	3,698,939

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	305,387	227,642
1年内返済予定の長期借入金	28,590	199,956
未払金	119,218	61,015
未払費用	37,124	31,627
未払法人税等	45,153	17,390
未払消費税等	52,132	18,519
契約負債	100,849	141,214
賞与引当金	28,000	28,000
資産除去債務	—	7,844
その他	14,263	14,766
流動負債合計	730,717	747,972
固定負債		
長期借入金	36,824	716,729
退職給付に係る負債	226,371	224,195
資産除去債務	39,498	35,818
繰延税金負債	19,341	62,169
その他	1,678	1,348
固定負債合計	323,712	1,040,258
負債合計	1,054,428	1,788,230
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,483,482	1,483,482
資本剰余金	1,453,482	1,453,482
利益剰余金	△650,421	△1,169,124
自己株式	△121	△121
株主資本合計	2,286,423	1,767,720
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	109,625	142,988
その他の包括利益累計額合計	109,625	142,988
純資産合計	2,396,048	1,910,709
負債純資産合計	3,450,476	3,698,939

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	4,138,789	3,924,475
売上原価	2,416,827	2,416,869
売上総利益	1,721,962	1,507,606
販売費及び一般管理費	1,625,464	1,708,723
営業利益又は営業損失(△)	96,498	△201,117
営業外収益		
受取利息	607	2,266
受取配当金	2,965	4,304
受取保険金	—	10,000
為替差益	—	3,125
その他	—	676
営業外収益合計	3,573	20,372
営業外費用		
支払利息	1,892	7,119
支払手数料	—	24,046
為替差損	3,073	—
投資事業組合運用損	2,217	1,425
その他	—	352
営業外費用合計	7,182	32,943
経常利益又は経常損失(△)	92,889	△213,688
特別利益		
固定資産売却益	221	—
役員退職慰労引当金戻入額	45,465	—
特別利益合計	45,686	—
特別損失		
固定資産除却損	2,886	—
投資有価証券評価損	15,152	—
減損損失	—	※ 219,628
特別損失合計	18,037	219,628
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	120,537	△433,316
法人税、住民税及び事業税	39,052	21,152
法人税等調整額	△9,599	64,234
法人税等合計	29,453	85,386
当期純利益又は当期純損失(△)	91,084	△518,702
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	91,084	△518,702

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	91,084	△518,702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28,458	33,363
その他の包括利益合計	△28,458	33,363
包括利益	62,626	△485,339
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	62,626	△485,339

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,483,482	1,453,482	△741,505	△121	2,195,339
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益			91,084		91,084
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	—	—	91,084	—	91,084
当期末残高	1,483,482	1,453,482	△650,421	△121	2,286,423

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	138,083	138,083	2,333,422
当期変動額			
親会社株主に帰属する 当期純利益			91,084
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	△28,458	△28,458	△28,458
当期変動額合計	△28,458	△28,458	62,626
当期末残高	109,625	109,625	2,396,048

当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,483,482	1,453,482	△650,421	△121	2,286,423
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純損失 (△)			△518,702		△518,702
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)					—
当期変動額合計	—	—	△518,702	—	△518,702
当期末残高	1,483,482	1,453,482	△1,169,124	△121	1,767,720

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	109,625	109,625	2,396,048
当期変動額			
親会社株主に帰属する 当期純損失 (△)			△518,702
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	33,363	33,363	33,363
当期変動額合計	33,363	33,363	△485,339
当期末残高	142,988	142,988	1,910,709

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	120,537	△433,316
減価償却費	28,757	77,808
減損損失	—	219,628
のれん償却額	94,011	94,011
役員退職慰労引当金戻入額	△45,465	—
投資有価証券評価損益(△は益)	15,152	—
受取利息及び受取配当金	△3,573	△6,570
支払利息	1,892	7,119
受取保険金	—	△10,000
売上債権の増減額(△は増加)	15,886	84,429
棚卸資産の増減額(△は増加)	2,546	△4,559
前払費用の増減額(△は増加)	△5,718	△15,551
営業債務の増減額(△は減少)	△12,250	△77,745
未払金の増減額(△は減少)	24,183	△45,990
未払費用の増減額(△は減少)	2,703	△5,497
未払又は未収消費税等の増減額	△12,012	△33,613
契約負債の増減額(△は減少)	△46,243	40,035
預り金の増減額(△は減少)	△5,571	502
その他	△21,955	19,873
小計	152,880	△89,436
利息及び配当金の受取額	3,573	6,564
利息の支払額	△2,060	△8,558
保険金の受取額	—	10,000
法人税等の支払額	△35,351	△56,415
法人税等の還付額	18,835	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	137,876	△137,845
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,624	△8,330
有形固定資産の売却による収入	1,885	—
無形固定資産の取得による支出	△32,069	△44,701
投資有価証券の取得による支出	—	△15,000
投資有価証券の売却による収入	—	0
定期預金の払戻による収入	65,533	5,006
差入保証金の差入による支出	△8,387	—
差入保証金の回収による収入	10,598	666
資産除去債務の履行による支出	△9,800	△211
その他	20	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	23,157	△62,570
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△161,780	—
長期借入れによる収入	—	1,000,000
長期借入金の返済による支出	△59,135	△148,729
財務活動によるキャッシュ・フロー	△220,915	851,271
現金及び現金同等物に係る換算差額	△282	3,386
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△60,164	654,242
現金及び現金同等物の期首残高	1,401,217	1,341,054
現金及び現金同等物の期末残高	1,341,054	1,995,296

- (5) 連結財務諸表に関する注記事項
 (継続企業の前提に関する注記)
 該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

※ 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

会社	場所	用途	種類
株式会社ユビキタスAI	東京都新宿区	事業用資産	建物附属設備、工具、器具及び備品、ソフトウェア、その他（無形固定資産）
株式会社グレープシステム	神奈川県川崎市 中原区	事業用資産	建物附属設備、工具、器具及び備品、のれん

減損損失の算定にあたっては、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として会社別を基礎として資産のグルーピングを行っております。

上記資産グループについては、営業活動による収益性の低下が認められ、短期的な回復が見込まれないため、当該資産グループに係る資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

減損損失のそれぞれの内訳は株式会社ユビキタスAI 79,306千円（建物附属設備53,252千円、工具、器具及び備品25,340千円、ソフトウェア510千円、その他（無形固定資産）203千円）、株式会社グレープシステム140,322千円（建物附属設備203千円、工具、器具及び備品2,244千円、のれん137,875千円）となります。

なお、回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから零として評価しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ソフトウェア事業」及び「アナリティクスソフトウェア事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ソフトウェア事業」は、組込みネットワーク、セキュリティ&リアルタイムOS関連製品、高速起動製品、データベース製品等の主に自社開発によるデバイス組込み用ソフトウェア、海外ソフトウェアの輸入販売、テクニカルサポート、組込みソフトウェア等の受託を中心とした各種ソフトウェアの設計、開発及びデータコンテンツのライセンス等に関するセグメントであります。

「アナリティクスソフトウェア事業」は、統計・数値データ解析ソフトウェア等における海外ソフトウェアの輸入販売及びテクニカルサポート等に関するセグメントであります。

当連結会計年度より、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」及び「ソフトウェアサービス事業」を「ソフトウェア事業」として統合し、「データアナリティクス事業」を「アナリティクスソフトウェア事業」に名称を変更したうえで、2つのセグメントに変更しております。これは、2025年6月に公表した「中期経営計画」(2026年-2028年)を踏まえて、事業セグメントについて改めて検討した結果、当社グループの事業戦略は、顧客のソフトウェアニーズに対して全方位的な支援を行うビジネスモデルに変革しており、当該事業戦略の実行のための組織体制の統合及び経営管理体制の見直しの実態を踏まえ、「ソフトウェア事業」及び「アナリティクスソフトウェア事業」の2つの報告セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、当連結会計年度の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益又は損失(△)は、営業利益又は営業損失(△)ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の算定においては、サービスごとの売上高、利益の集計を行っております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,223,816	914,973	4,138,789	—	4,138,789
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,223,816	914,973	4,138,789	—	4,138,789
営業利益	44,755	51,743	96,498	—	96,498

当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,992,804	931,671	3,924,475	—	3,924,475
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,992,804	931,671	3,924,475	—	3,924,475
営業利益又は営業損失 (△)	△244,619	43,502	△201,117	—	△201,117

【関連情報】

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	計	調整額	連結財務諸表計上額
減損損失	219,628	—	219,628	—	219,628

(1株当たり情報の注記)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	229.09円	182.69円
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 (△)	8.71円	△49.59円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社 株主に帰属する当期純損失 (△) (千円)	91,084	△518,702
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純 損失 (△) (千円)	91,084	△518,702
普通株式の期中平均株式数 (株)	10,458,883	10,458,883

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。